

第2回佐賀市総合計画 経済・産業分科会 議事録

- ◆ 日時
令和6年7月11日（木）10:00～12:00

- ◆ 会場
佐賀市役所 大財別館 4階会議室

- ◆ 出席委員（敬称略、五十音順） ※◎は分科会長
牛島英人、◎内山真由美、梅崎義高、大島清美、木村恭子、庄野雄輔、杉山利則、平野正人、古園裕久、宮崎悟、村井慶史

- ◆ 欠席委員（敬称略、五十音順）
伊藤喬

- ◆ 事務局
経済部長、農林水産部長、経済政策課長、観光振興課長、中心市街地振興室長、農業振興課長、森林整備課長、水産振興課長 外

- ◆ 傍聴者
なし（報道関係者を含む。）

- ◆ 議事要旨
 - 1 開会
 - 《自己紹介》
 - 各委員の自己紹介

 - 2 議事
 - (1) 政策「経済・観光」「農林水産」について
 - 《説明》
 - 「経済・観光」前回意見と対応について説明（事務局）

 - 《意見交換等》
 - 委員
意見8の「新たな投資を呼び込む好循環を生み出す」について、まさしくこの通りで

ある。佐賀らしさを言う言葉が多くあるが、経済分野における佐賀らしさは何かと思うか。

○事務局

経済全体としては表現が難しいが、分野ごとでは出てくると思う。観光や特定の業種では自然や土地柄を生かしたものが佐賀らしいであると思う。例えば、熊本では水が豊富であることを生かして、半導体産業が盛んである。今後、土地的な特徴が見つかれば注力すべきと考えている。

○委員

私は、佐賀らしさは商業ではないかと考える。ゆめタウン佐賀は、他の大型ショッピングセンターがあるにもかかわらず、グループ内で西日本の売り上げ1位であると聞いた。その理由として、佐賀市は平野であり、道路の利便性が良く、他県を含めた商圏が広い。一方、集客力があるといっても、佐賀市の中心部は、アリーナによって週末は集まっているが、平日の日常ではそうではない。コンパクトシティとして投資を集めるためには、熊本や長崎では新幹線ができて駅前の再開発で人を集めているように、新幹線が通れば駅前を開発して人を集めて佐賀の良さを知ってもらうのが良いのではないか。これから新幹線ルートのことを含めて明確になれば、具体化してほしい。

○事務局

手法の具体化についてはその都度、社会経済状況を踏まえて対応したい。人が集まれば事業や商売も集まり、さらに人を呼び込むという好循環を目指している。

○委員

前回の意見を取り上げ、修正していただき、ありがたい。しかし、創業については、現行計画の4番でも独立した創業支援の強化として挙げられていた。今後、小中高から創業教育に取り組むなど、注力してほしい。

○事務局

元の素案では、「先進的なビジネスへの挑戦」としており、その中に創業や新事業展開などの革新的取り組みが含まれる意図で書いていた。議論を踏まえて、やはり創業は特出しをする必要があると考えた。ネットワークの構築やオープンイノベーションが軸となる。

○分科会長

続いて、前回分科会後、新たにいただいた意見の内容について議論させていただきたい。

○委員

新しい働き方や新たなフィールドで活躍する企業の魅力などを、高校生や大学生といった就業が近い世代だけでなく、もっと下の世代から伝えていくことを要素として追加してもいいと思って意見を出した。企業を増やすとともに教育的要素というのは大事なのではないか。先進的企業に加え、そこで働く人が増えれば、まちなかを訪れる人も増えていく。同時に価値観も多様化し複合的な要素を集めたまちとなり、プレーヤーが増えていくのではないか。

○事務局

もっともな意見であり、小さい頃から関わることは、シビックプライドの醸成を含めて大事な視点と考える。実際にはNPOとも協力しながら、高校・大学生を中心としたキャリア教育に取り組んでいる。小中学校では学校教育課程とも関わるため、社会人となる間近である高校・大学生を中心としているが、小中学生も同じように大事であり、教育分科会とも調整して記載を検討したい。

○委員

各論になるかと思うが補足として、「地域ブランドの創出」「佐賀らしさ」として、ぜひ佐賀市の地域資源である「クリーク」の活用も、観光資源の重点要素の一つとして検討していただけたらと思う。佐賀らしさとして、クリークは地味なものではあるが、市民活動によって広がってきているため、オンリーワンの観光資源の1つとして、参考にしていただきたい。

○事務局

クリーク：水路については観光資源の1つとして考えている。広大な田園や豊かな山々、きれいな川、温泉といった当たり前にあるものが観光資源である。

○委員

ここにしかないモノ・コトが集まる「まちなか」への進化に、バリアフリーについての観点を方針に反映させて欲しい。先日、特に佐賀駅前で歩きづらいと感ずることがある、車いすで利用できるお店を探して苦労したという話を聞いた。健常者でない方が気軽に集まるには不自由することがあるので、多くの人が集まるのであれば、バリアフリーの観点も必要であると感じて意見した。

○事務局

重要な視点であり、反映したい。みんなが楽しく過ごす・回遊したいまちを達成するためには、バリアフリーやノーマライゼーションは大事な要素である。現在でも店舗や施設のバリアフリー化に対する補助制度があり、特に中心市街地の店舗において補助を厚くして、まちなかのお店のバリアフリー化を促進している。みんなが楽しく過ごせるというのは、高齢者や障害のある方を含めたすべての人を対象としたものである。

○分科会長

続いて、前回分科会后、新たな意見の内容について議論させていただきたい。

○委員

計画素案を読んで、経済・観光、農林水産においても人を大切にしていると感じる。そこでは佐賀の住民・関わる人などとまとめられているが、実際の生活では外国人やLGBTの方などもいるところが見えにくい。また、グローバルという視点も足りていないのではないか。

○事務局

最初の審議会でも別委員から意見があったが、外国人人口はどんどん増加しており、外国人に関する取り組みは、全分野において関係してくると考える。そこで、各分野の目指す姿の「横断的な視点」において、今は多様性の中に外国人を含めているが、国際化・グローバル化を、横断的なものとして追加したいと調整している。

○委員

各委員の意見について、細かく対応いただいた。横断的な視点の「進化し続けるまち」に関して、これから進化していくのが新たな総合計画において必要な観点であると思う。今までを継続して新たに進化していくという意味合いを持たせられれば良いと思う。

○事務局

進化に加え、深化という意味合いも含めている。今回の総合計画のスタートとして、今後は人口が増えないという事実を踏まえて開始した。大きな将来の目標として、社会情勢の大きな変化は予想がつかない中、変化に対して挑む、進化し続けるまちをキャッチフレーズとして取り組んでいる。経済分野の上の全体目標において取り組んでいる。

○委員

就業に関して、以前は漁業や農業でも就職活動で高校生などからの応募があったが、今は働き方改革や賃金の問題もあり、なかなか応募がない。働き始める前からそういった職業のよいところを伝えていけたらと思う。

また、大学等で学んだ人は多く県外へ出ていき、残る人は30%程度ということも聞いているため、残った人が働きやすい環境を整えることが重要ではないかと考える。

○事務局

人口減少は経済において、消費の減少・経済の縮小と働き手の減少の2つの影響が大きく、意識する必要があると考える。2番で記載のある、人材確保と育成が多く意見をいただいているところである。人口が減少していくことは変えられない中長期的課題であり、若年層へのキャリア教育については、教育分野と連携して取り組みたい。

○委員

観光について、佐賀らしい観光という表現があるが、PTA 会長として活動した際に、佐賀市には北から南まで広いエリアがあり、市町村合併した地域を含めて、それぞれで地域らしさが異なると感じた。佐賀県では唐津や武雄ではその市らしさのイメージがあるが、佐賀市ではあまりイメージがつかない。取組でバルーンが初めにあるがあくまでイベントで常時あるのではなく、地域ごとに観光・集客要素がある。佐賀市らしさや佐賀市の観光とまとめるのではなく、佐賀市の地域ごとの特徴や方針を打ち出した方が、外部の人にはわかりやすいのではないかと考える。

○事務局

ご指摘の通り、佐賀らしさといっても広い佐賀市の特徴を1つに表すことは難しいとは考えている。その中で、身近な観光資源が点在しているが、市民も気づいてないところがあり、それにうまく光を当てブランディングをしていきたい。

確かに、バルーンフェスタ自体は5日間だけであり、それに頼らず通年佐賀市を楽しめる資源、食や歴史的な街並みなどいろいろなものを整理していかなければならない。市民の方にもこんなものがあると、PRを手伝ってもらってほしい。いただいた意見は反映できないものを含め、念頭において進めたい。

○委員

できれば、佐賀らしさだけでなく、有明海や山など、地域の特性を生かした観光を提供できるような文言に変えていただけるとよいと思う。

○事務局

わかりにくいところはあると思うので、記載場所などを含めて検討し、報告させていただく。

○委員

目指すところの主語として、多くは市民であるが、2つ目の観光だけ「市を訪れる人が」となっている。その主体は市民であるべきかと思うので、できれば、「市民は」観光客に対して、という形にできないか。

○事務局

総合計画は基本的に市民が主体になる。一方で、どうしても観光は市民ではなく外から佐賀市へ来ていただく方に対することが目的となるため、表現的にはこういった形になっている。仮に、主語を市民とした場合は今の記載内容につなげることで分かりづらくなってしまうため、悩んだ結果、このようにしている。

《説明》

○「農林水産」前回意見と対応について説明（事務局）

○委員

体験型授業は今はやっていないとのことだが、佐賀市独自で取り組んでほしい。農業に限らず、水田が田んぼダムとして防災にも役立つことを入れてほしい。子どもたちに佐賀市の農業が防災面でも役に立つことを発信いただけるとよいのではないか。

○事務局

農地に限らず、森林も水源管理能力や土砂の流出防止などができ、農林水産業が災害防止に役立っている。田んぼダムも一時的に水を貯めることで水の流出を分散するなど、生産すること以外の効果についても発信していきたい。

○委員

生活に必要な衣食住でも、食が重要である。どうしても食べるものを安くしないと生活していけない。特別なものでなければ高くは売れないし、大量に生産しても安くはできない。収益に対して最低限の補償をしていかないと、農業を続けていく人がほぼいないと思う。農家の子供はそういったことを知っているため、継ぐ気がなくなっており、国全体の問題として、意識してほしい。林業について、最先端の機械導入によって生産性が向上できれば良いかと思うが、農業は手間暇がかかるため、最低限の保証をするという制度がなければ、残していくことは難しいと考える。

○事務局

特に農家への補助のあり方は、国際的にもいろいろあり、関税や個別補償など国それぞれで分けられている。OECD による PSE という農業保護の指標を見ると、日本においては世界平均の 1.6 倍となっている。それが十分な水準かという話や、農産物は価格移転がしにくいということもあるため、国を挙げての検討が必要ではないかとは思っている。

○分科会長

続いて、前回分科会後、新たな意見の内容について議論させていただければと思う。

○委員

農業の取組の方針数が多いので、最重要な方針の明示か、優先度を決めた方が良く考える。また、①と④「労働力確保」、②と③と⑦の「生産効率化」に関する方針は重複していると思うので、統合した方が良いのではないか。私自身は、重点的にやることとして、一番重要なのは労働力確保と思っている。

○事務局

方針数が多くなってしまった。今回、8 番目を付け加えたこともあり、わかりづらい面もあると思うので、文言の調整や統合について検討し、可能な部分は統合してお見せできればと思う。

○委員

⑥に「地場産品のブランド化に磨きをかけ、」とあるが、認識不足もあるかもしれないが、すでにブランド化の動きをしているのか。そうであれば、具体的に教えていただきたい。

○事務局

具体的には、お米の「さがびより」やみかんの「あんみつ姫」の生産・振興がある。それとは別に、6 次産品を「いいモノさがし」として認定し、新たなブランド化に取り組んでいる。光樹トマトなど、新たな食材に付加価値を加えている。

○委員

さがびよりやあんみつ姫は知っていたため、申し訳ない。県の方でもブランド化に取り組んでいるため、競合したりせずに、取り組んでほしい。

○委員

農産物フェアという形で、直接生産者の方が出向いて出店して販売するような取り組みを行っており、私も女性部として出店したことがある。その時はいろいろとPRしたが、関係者しか集まらず、一般市民の参加が少なかった。一般市民への周知が不足していると感じたため、工夫が必要ではないか。

○事務局

イベント企画は佐賀市に限らず、JA などいろいろなところで行っているため詳細はわからないが、農産物フェア単独イベントでの集客はなかなか難しいと考えている。そのため、アリーナなどでの他のイベントとの同時開催を行うよう取り組んでいる。

○委員

魚介類の漁獲量の確保があるが、タイラギなど年によって豊漁・不漁などがある。今後どうやって取り組んでいくか、

○事務局

有明海の環境改善が必要不可欠であり、県でも海底の耕耘や稚貝の放流などの取組を行っている。市としても、川からの栄養の増加のために浚渫のような取り組みをしている。こういった取り組みが貝の育成につながればと思っている。

○委員

タイラギやウミタケなどの貝類について、ウミタケは以前取れた場所で海底整備などを行ったらまた生まれるようになり、昨年、17年ぶりの出荷となった。一方貝類としては、ここ数年は大雨による流入が多く、淡水の影響の多い有明海では塩分濃度が下がるため、昨年度の大雨によって多くが亡くなってしまった。アサリも雨による低養分で死滅してしまう。ここ数年は、線状降水帯による被害が多い。タイラギは12年連続で休業となっており、稚貝放流も行っているが、海の酸素濃度が低いことが原因である。他にもノリ養殖が赤潮でなくなることもある。これをやったらよくなるというものではないため、地道に少しずつ進めている。

○委員

有明の観光を考えた時に、水産物の貝は重要であり、難しい面もあると思うが、ぜひ取り組んでほしい。

○委員

観光の文章に関して、「人」が入っていない。観光地に行って良かったと思うのは、

接客や人との関わりではないかと思う。これについては、まず主語を市民にしてほしい。佐賀市民が自分たちの観光資源に気づいていないまま、来た人に広めるのはおかしい。市民が気づいた上で観光客におもてなしをして、佐賀市を気に入ってファンになってもらいたい。そういった点を踏まえて文言は検討してほしい。

○事務局

市民が観光資源について気付いていないと PR につながらない、聞かれても何もないとなってしまうのは確かである。まず市民が自分たちのまちの魅力を気付いて、人に伝えるのが流れかとも思う。どのように表現するかは検討させていただきたい。

○委員

さきほど、イベントの主催の話があったが、市民にとってはどこがやっているかは関係ない。特にオープン型市民説明会も市街地広場ではやっておらず、佐賀の人たちはゆめタウンに集まるのが明らかなのではないか。中心市街地活性化は昔からやっているが、効果は出ていない。正解や有効手段はわからないが、平日などの日中を通して人が集まることを目指して是非力を入れてほしい。

また、第2次計画の目標値の達成状況が新聞報道されていたが、市民感情や市民意識に寄り添うことをもっと考えてもらいたい。達成項目を見ても、審議会の女性割合などはやろうと思えばすぐに達成できるが、市街地への入込人数などは難しい。市民の市政参加が佐賀市の市民の力量を示すものである。オープン型市民説明会は良かったと思うが、佐賀市の一番上位の計画であるので、どこへでも出向いて説明するなどして、興味を持ってもらえるようにしてほしい。

○事務局

まちなかがにぎわっていた以前から、郊外に大型店ができてきた。時が流れ、商業に加えて、都市機能をまちなかに集めて、人が来る・利用する機能が必要であると考えている。町の中心はなければいけないと考え、取り組んでいる。十分に成果が出せていると言えない部分はあるが、今後もしっかりと取り組んでいきたい。

3 閉会

○分科会長

本日の議論はこれまでとさせていただきたい。次回の会議は7月30日（火）に佐賀市役所にて開催する。